

化学

共通テスト初年度について

傾向

- 大問数は5で、2018年度試行調査と同等でした。マーク数は実質28と、試行調査よりやや減少しましたが、個別試験レベルの難易度の問題や、計算量が多い問題が見られ、時間のやりくりで苦労するセットでした。負担感は試行調査より大きかったと考えられます。
- 一部に、センター試験では見られなかった出題形式の問題が出題されましたが、試行調査で見られたような目新しい出題形式の多くは鳴りを潜め、センター試験の形式を踏襲した出題が中心でした。
- 大問形式・中間形式を中心とした試行調査から一転して、センター試験を踏襲した小問集合形式が中心の出題となりました。前者の場合、おのずと出題分野が絞られてくるため、全分野にわたる幅広い内容を問いにくく、いわゆる「ヤマが当たる」という現象を回避しづらいという難点がありました。この点が、方針転換して従来の形式に回帰する一因になったと考えられます。

出題内容

大問	出題内容	難易度		
		やや易	標準	やや難
1	小問集合／理論分野		●	
2	小問集合／理論分野		●	
3	小問集合・中間／無機分野			●
4	小問集合／有機分野		●	
5	中間／理論分野・有機分野			●

パワーマックスについて

編集方針

- 2021年度本試験に合わせた形式の模試を中心に、過去2回の試行調査に合わせた形式の模試を加え、計5本掲載
- さまざまな出題形式に対応できるよう、最新の本試験だけでなく、試行調査で出題された形式も盛り込んだ**Z会オリジナル問題**

書籍の特長

- 第1回～第3回は2021年度本試験、第4回は2017年度試行調査、第5回は2018年度試行調査の形式に対応しています。なお、第4回、第5回を含め、すべての回で**解答番号は全問通し番号**としてあります。
- 計算問題の数値を桁ごとに答える問題、グラフ描画問題、前問連動型問題、大問形式の問題など、**共通テストで新しく導入された出題形式の問題を取り入れ、1冊を通じて対策できるようになっています**(1つの解答番号に複数のマークを行う問題は、出題していません)。

パワーマックス 化学 出題一覧

	大問	出題内容	解答 目安 時間	難易度		
				やや 易	標準	やや 難
第1回	1	理論分野／原子の構造、結晶、気体	13分	●		
	2	理論分野／熱化学、電池・電気分解、反応速度、活性化エネルギー	12分	●		
	3	無機分野／周期表、非金属元素、沈殿生成反応、気体の発生法	11分	●		
	4	有機分野／異性体、脂肪族化合物、アニリンの合成、高分子化合物、天然有機化合物	12分	●		
	5	理論分野／溶液内の平衡	12分	●		

第3回	1	理論分野／結晶、溶解度、希薄溶液の性質、炭酸カルシウムの熱分解	12分	●		
	2	理論分野／熱化学、電池、反応速度、溶液内平衡	12分	●		
	3	無機分野／気体の発生法と性質、金属の同定、身のまわりの化学	10分	●		
	4	有機分野／脂肪族化合物、芳香族化合物、高分子化合物	13分		●	
	5	理論分野／沈殿滴定	13分		●	

第5回	1	理論分野／電池、結晶、熱化学	14分			●
	2	無機分野／塩素に関する総合問題、金属イオンの系統分離、溶解度積	13分		●	
	3	有機分野／脂肪族化合物、芳香族化合物	13分	●		
	4	理論分野／気体反応の平衡	10分	●		
	5	有機分野／高分子化合物	10分		●	

	大問	出題内容	解答 目安 時間	難易度		
				やや 易	標準	やや 難
第2回	1	理論分野／結合・結晶、気体、希薄溶液の性質	13分			●
	2	理論分野／熱化学、電池、化学平衡	12分			●
	3	無機分野／アルカリ金属、沈殿生成反応、気体の性質	11分		●	
	4	有機分野／脂肪族化合物、異性体、高分子化合物、芳香族化合物	12分		●	
	5	理論分野／気体反応の平衡	12分		●	

第4回	1	理論分野／溶解度、結晶、気体、コロイド、反応速度	13分			●
	2	無機分野／電池、典型元素、金属イオンの性質、身のまわりの化学	13分		●	
	3	有機分野／脂肪族化合物、芳香族化合物	13分		●	
	4	理論分野／酸化還元滴定	12分			●
	5	有機分野／高分子化合物	9分		●	